

マンスリー会員のご紹介

望月 飛辰 さん (43 歳)

プロフィール：日本ニューノーズ株式会社代表取締役社長。ご家族は、奥様の亜由美さん、長男の大生くん (中3) 長女の香歩ちゃん (小6) そして愛犬のキャバリアのチョコとモカがいます。

はじめは、この団体のスタッフでもある高木と約 12 年前に出逢ったところからはじまります。当時幼稚園教諭であった高木の教え子に、長男の大生くん、長女の香歩ちゃんがいました。

その後高木がオリエンタルランドに関わった後、難病の子どもとその家族へ夢をの立ち上げに携わったことを知り、この団体を知ることになりました。

支援しようと思ったきっかけは、長男大生くんの心臓の病気が発覚したことでした。小学 4 年生の時大手術をして無事に成功し、今現在はとても元気に過ごしています。その時以来、病気と勇敢に戦う子ども、その家族が不安を抱えながらも懸命に生きている姿を見て、自分たちにも何かできることがあるのではないかと考え始めていたそうです。その頃、縁のあった高木が関わるこの団体を知り、活動に共感し快くご支援して下さることになりました。

支援して下さる側として、今後の団体への想いを熱く語っていただきました。

ご家族のご苦勞を一瞬でも、毎日の緊迫、緊張した生活、時間から回避し、明日への希望、勇気が湧いてくるような時間、体験を提供して、精神的にも支えていることはとても素晴らしいことだと思っています。でも一番の親御さんの心配事は、ご自身が先に逝去されて、この我が子はどうなるんだろう？というのが最大の心配事だと思います。ですから、その心配事を安心できるしくみ作りをするのが最大の責務だと思っています。もしそれが、できれば世の中、劇的に変わると信じています。制度も含め、そういうしくみ作りを期待しています。

また、公益法人化されたことは、とても意味のある事だと思います。もっともっと持続可能なしくみにし、長く安定した活動を続けるために、支える側への気配り、そして実際に良いことをしたという実感を与え、税制的にも優遇を受け、直接的な支援ができるビジネスモデルを新しく構築することが必要だと思います。

アメリカなどの海外のように、ボランティアからビジネスモデル化することで、難病の子どもたちとその家族をサポートする個人、企業の両方に最大限持続可能な体制の構築、創造をされることを期待しています。ビジネス化することは多少なりとも穢れみたいに思いがちですが、結果的にそれが、長くこの心を提供できる方法だと思います。



お子様たちと・被災地大川小にも訪れていらっしゃいます



当時の兄妹

約 9 年前の長男大生くん (左) と高木 (右)

望月さんが大切にしている言葉として、「“ありがとう” を未来から」という言葉があります。「ありがとう」と未来の人から感謝されるために、今を生きる多くの人と共に負の遺産を未来へ残さず、次世代へ継承していく、というとても素晴らしい理念をお持ちです。そのような考えの中で、ご自身にできること、役割を常に考えていらっしゃいます。熱い理念と行動力のはやさに、私たちも学ぶことが大変多く、望月さんの想いに応えるべく私たちも邁進していきたいと思っております！ありがとうございます！

※マンスリー会員とは Hope&Wish 難病の子どもとその家族へ夢をの会員のことで、マンスリー会員ご希望の方は、上記をご覧ください。